

私たちは日本スポーツ振興センターの競技力向上事業助成とスポーツ振興くじ助成を得て事業を行っています

作成日：2026 年 5 月 31 日

2025 年度 事業報告書

(自 2025 年 6 月 1 日 ～ 至 2026 年 5 月 31 日)

公益社団法人

日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟(JBLSF)は、日本国内のボブスレー・リュージュ・スケルトンの各競技を統括し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の事業を実施した。

1. 競技普及振興活動

(1) そり競技体験会事業

傘下の道府県連盟が主体となり、新型コロナウイルス感染症予防対策を万全にして、小中学生を対象とした体験会事業を実施し、楽しみながらそり競技の魅力を体感してもらうことで、参加者はもとより、家族、友人、学校関係者のそり競技認知度を高めた。

事業名称	開催地	会場	開催日	参加数 (人)
NAGANO スポーツフェスティバル	長野	南長野運動公園	2025/10	150
ジュニアプッシュ・ライド体験会		スパイラル	2025/8	11
キッズバイクパークフェスタ 2025 in 太陽の村：芝ソリ滑 り体験会	宮城	太陽の村	2025/10/13	台風によ り中止
満喫！蔵王の冬(ソリすべり体験プ ログラム)		宮城県蔵王自然の 家	2026/1/31	100
ちびっこそり大会：デモンストレーシ ョンと正しいソリの乗り方講習会		みやぎ蔵王えぼし リゾートスキー場	2026/2/15	60
ケン王ーソリ大会(同時開催：宮城)		泉ヶ岳スキー場	2026/3/9	雪不足に

県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟ジュニア杯)				より中止
プラスチックそり雪上大会(冬季)	北海道	泉ヶ岳スキー場	2025/3/9	20
リュージュ体験教室		藤野競技場	2026/1 2026/2	270
大阪府民スポーツ大会 プッシュ選手権大会	滋賀県	陸上自衛隊 大津駐屯地内体育館	2025/7	3
大阪府民スポーツ大会兼 藤原杯スケルトン選手権大会	北海道	藤野競技場	2026/2	14

(2) 選手発掘事業

① JSC スポーツくじ事業 タレント発掘

昨年度策定した競技別発掘育成計画書に基づき、ボブスレー・スケルトンは8年、リュージュは15年計画でオリンピックメダリスト有望選手を発掘・育成することを目的に、以下の事業を実施した。

■ボブスレー・スケルトン合同

事業名称	開催地	開催日	参加数(人)
発掘テスト1	宮城県	2025/5/18	7
発掘テスト2	埼玉県	2025/5/24	15
発掘テスト3	愛媛県	2025/6/28	28
育成合宿5	東京	2025/8/28-31	4

■ボブスレー

事業名称	開催地	開催日	参加数(人)
育成合宿1	東京・千葉	2025/6/3-5	3
育成合宿2	長野	2025/7/11-13	6
海外育成合宿1	韓国	2025/9/15-19	5

■リュージュ

事業名称	開催地	開催日	参加数(人)
海外育成合宿2	韓国	2025/11/19-30	5
海外育成合宿4	オーストリア	2026/1/3-20	4
海外育成合宿7	韓国	2026/2/28-12	3
巡回指導	愛媛・北海道	2025/6/23-24 26-28	5
巡回指導	愛媛・北海道	2025/9/20-23	4

■スケルトン

事業名称	開催地	開催日	参加数(人)
育成合宿4	長野県	2025/8/9-11	2
育成合宿8	長野県	2025/10/2-5	2

海外育成合宿 5	韓国/平昌	2026/3/2-17	4
----------	-------	-------------	---

(3) 国際大会・全国大会事業

長野市ボブスレー・リュージュパーク(通称スパイラル)の冬季製氷休止に伴い、JBLSF が運営する冬季大会は今年度も事業を休止した。

夏季に開催するボブスレー及びスケルトンの全日本プッシュ選手権大会は、医科学部所属の医師帯同のもと開催し、実践の場を通じた各選手の競技力強化及びボブスレー、スケルトンの振興普及を図った。

事業名称	開催地	会場	開催日	参加数(人)
2025 全日本プッシュボブスレー選手権 Presented by 北野建設	長野県	スパイラル	2025/8/9	14
2025 全日本プッシュスケルトン選手権 Presented by 北野建設				9

(4) 審判資格者育成事業

審判員資格の取得は、大会運営に必要不可欠な競技役員の確保のみならず、選手やコーチの活動における基礎知識の取得にもつながることから、競技委員会や加盟団体と連携して研修会・講習会を開催した。

研修会・講習会では国際審判員資格取得者が講師を務め、競技普及の一助となるよう、参加料・受験料はすべて無料とした。

事業名称	開催地	会場	開催日	参加数(人)
大阪連盟ルール講習会	兵庫県	サンライフ明石	2025/12/14	7

(5) 長野スパイラル利用拡大推進事業

長野スパイラルの冬季製氷休止に伴い活動休止。

(6) 広報・資金調達活動事業

マーケティング委員会として、連盟主催の全国大会である全日本プッシュスケルトン選手権及び全日本プッシュボブスレー選手権の価値向上に注力した。今年度は新たに、VIP 席・観覧席・簡易トイレ・手すりなどの設置等を行い、来場者が安全かつ快適に観戦できる会場環境整備を実施した。加えて、昨年度より継続して、オフィシャルトップパートナーである 北野建設株式会社の冠大会として開催し、会場内におけるバナー・のぼり・バックボード等の装飾展開を通じて、競技会としての演出強化とパートナー企業の認知向上を図った。広報活動においては、開催地である長野県内のテレビ局・新聞社等への事前取材依頼を実施するとともに、連盟として公式プレスリリース配信を行った。結果として、テレビ・CATV・新聞・通信社など複数のメディアにて大会の様子が取り上げられ、競技の認知拡大につなげることができた。加えて、自社メディア(Instagram・YouTube)を積極的に活用し、外部クリエイティブエージェンシーと連携した大会ハイライト映像等を制作・配信することで、競技の魅力発信に努めた。

そり競技体験イベントについては、8月に長野県、3月に埼玉県にて実施した。来場者に対して、ボブスレー・リュージュ・スケルトン競技の展示、ローラーそり体験、リュージュスタート体験等の各種コンテンツを提供し、競技への理解促進と普及活動を行った。また、小林選手を招致し、選手村での生活やオリンピック出場時の経験・感想等について交流を行うことで、来場者に対しトップアスリートとの接点を創出し、競技への興味関心向上につなげた。

選手のシーズン活動においては、各種ウェアへのパートナーロゴ掲出を行い、国内外の大会や国際連盟配信映像等を通じて、パートナー企業の露出機会創出に努めた。加えて、昨年度締結したPR TIMESとのパートナーシップを活用し、継続的なプレスリリース配信を実施することで、連盟活動の情報発信体制強化を図った。

これらの活動を通じて、競技およびパートナー企業双方の認知向上に寄与することができた。資金調達活動としては、広告代理店や企業への提案活動を継続的に実施した。今後も各企業・代理店との連携を深め、新規パートナーシップの獲得および財源基盤の強化を目指していく。

2. 競技者強化と指導者養成活動

(1) 強化事業

-1. ボブスレー

国際競技会派遣参加基準を見直し、身体能力レベルの高い選手尚且つインテグリティ意識の高い選手のみが代表選手に選出するようにした。

事業名称	開催地	事業内容	開催日	参加数(人)
国内強化合宿 1 ※リュージュ合同	埼玉県	スプリントトレーニング ウエイトトレーニング インテグリティ教育セミナー 個人面談	2025/5/26-28	5
国内強化合宿 2	長野県	スタートトレーニング チームビルディング	2025/6/19-21	6
国内強化合宿 3	長野県	スタートトレーニング コンバインテスト	2025/7/24-26	8
国内強化合宿 4	長野	最終選考会	2025/8/22-23	8
アスリートセミナー	オンライン	SNS の利活用 アンチ・ドーピング 選抜選手における行動規範 そり競技オリンピックからの講話 個人面談	2025/8/26 2025/8/28 2025/9/2 2025/9/9 個別対応	8

-2. リュージュ

米国リュージュ連盟(USLA)とのパートナーシップ契約を当年度も継続し、JOC 海外研さん事業を利用したアメリカ夏季合宿を実施し、氷上スタートトレーニングを中心とした強化トレーニングを、アメリカ・レイクプラシッドでおこなった。

国内合宿は、国際競技会派遣選考規定のコンバインテストを実施。また韓国・平昌のアイスハウスを利用したスタートトレーニングを実施した。氷上でしっかりと氷を掴む感覚を養うことができた。

事業名称	開催地	事業内容	開催日	参加数(人)
コンバインテスト	長野	コンバインテストの実施 今年度の目標設定 遠征スケジュール計画の確認	2025/6/20	1
海外研さん事業	アメリカ	専門コーチによる氷上スタートトレーニング 専門トレーナーによるフィジカルトレーニング マテリアル(ソリ)のフィッティング調整	2025/6/22 ～ 2025/7/28	1
海外強化合宿	韓国	※韓国リュージュチームとの合同合宿 氷上スタートトレーニング フィジカル・コンデショニングトレーニング	2025/9/12 ～ 2025/9/18	1

-3. スケルトン

JSC「メダルポテンシャルスポーツ育成のための持続可能なシステム構築支援委託事業(システム構築事業)」において、日本版 FTEM モデルを基に、Talent 段階の選手を Elite 段階へと移行させるためのシステム構築を目指した取り組みを実施した。

本事業では、TA(ターゲットアスリート)を対象に、個別課題の抽出および競技力向上を目的とした合宿を重点的に実施し、特にスタート局面におけるプッシュタイムの向上に焦点を当てたトレーニングを行った。

事業名称	開催地	会場	開催日	参加数(人)
国内合宿①	東京都北区	HPSC	2025/5/24-27 2025/6/6-12	3
国内合宿②	長野県長野市	長野市ボブスレー・リュージュパーク 黒姫陸上競技場	2025/7/16-21	3
国内合宿③	長野県長野市	長野市ボブスレー・リュージュパーク 黒姫陸上競技場	2025/8/25-31	2
国内・海外合宿 ①	長野県長野市 北京/中国 ウィスラー/カナダ パークシティ/アメリカ	長野市ボブスレー・リュージュパーク Yanqing National Sliding Centre Whistler Sliding Centre Utah Olympic Park	2025/10/19- 12/1	2
国内合宿④	東京都北区	HPSC	2026/2/18-27	2
国内合宿⑤	東京都北区	HPSC	2026/3/18-27	2

海外遠征・国際レース参戦事業

-1. ボブスレー

本年度、オリンピックの出場権獲得を目指しノースアメリカカップを主戦場とする選択をし、未滑走であった北米コースで滑走合宿を実施して大会に備えた。男子チームにおいては、他国と勝負ができる内容まで仕上げられたが試合では細かいミスが目立ち、想定していた順位を獲得できなかった。女子選手においては、試合を重ねるごとに成長はしていったが、オリンピックの出場権を獲得するところまでにはいかなかった。

今回、オリンピックのクオリファイシステムの確認ミスにより、男子チームの出場権を消失させてしまったことを重く受け止め、今後は組織全体で確認をおこなうように体制づくりの再構築が必要である。

事業名称	開催地	事業内容	開催日	参加数(人)
海外滑走合宿	北米	海外滑走合宿	2025/10/23-12/3	7

■ノースアメリカカップ

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/11/20	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 1 戦	ウィスラー/カナダ	9	篠原・假屋
			10	松岡・加藤
2025/11/20	ノースアメリカカップモノボブ 第 1 戦	ウィスラー/カナダ	12	石川
2025/11/20	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 2 戦	ウィスラー/カナダ	7	松岡・加藤
			15	篠原・假屋
2025/11/30	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 3 戦	パークシティ/アメリカ	11	篠原・奥野
			13	松岡・加藤
2025/11/30	ノースアメリカカップモノボブ 第 3 戦	パークシティ/アメリカ	12	石川
2025/12/1	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 4 戦	パークシティ/アメリカ	5	松岡・加藤
			10	篠原・奥野
2025/12/1	ノースアメリカカップモノボブ 第 4 戦	パークシティ/アメリカ	10	石川
2026/1/2	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 5 戦	レイクプラシッド/アメリカ	13	松岡・奥野
			DNS	篠原・假屋
2026/1/2	ノースアメリカカップモノボブ 第 5 戦	レイクプラシッド/アメリカ	10	石川
2026/1/3	ノースアメリカカップ 2 人乗り 第 6 戦	レイクプラシッド/アメリカ	13	松岡・奥野
2026/1/3	ノースアメリカカップモノボブ 第 6 戦	レイクプラシッド/アメリカ	8	石川
2026/1/10	ノースアメリカカップモノボブ 第 7 戦	レイクプラシッド/アメリカ	11	石川

■ヨーロッパカップ

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/12/10	ヨーロッパカップ 2 人乗り	アルテンベルグ/ドイツ	9	篠原・假屋

	第3戦		15	松岡・加藤
2025/12/11	ヨーロッパカップ2人乗り 第4戦	アルテンベルグ/ドイツ	11	篠原・加藤
			12	松岡・假屋
2025/12/18	ヨーロッパカップモノボブ 第5戦	ウィンターベルグ/ドイツ	18	石川

-2. リュージュ

リュージュ海外遠征活動では、シニア・ジュニアともに海外合宿および国際大会へ参加し、国際競技力の向上を図った。

シニアでは、小林誠也選手が USA チームとの連携を継続し、海外トレーニングやワールドカップ参戦を通じて実戦経験を積み重ねた。

その成果として、2026 年ミラノ・コルティナ冬季オリンピック競技大会に出場し、国際舞台での経験を次の強化につなげた。

ジュニアでは、韓国・欧州での合宿や国際大会に参加した。

海外コースでの滑走を通じて、完走力、コース適応力、スタート技術、競技理解の向上に取り組んだ。

シニアはオリンピック出場を含む実戦強化、ジュニアは将来の国際大会・オリンピック出場を見据えた育成を進めた。

全体として、海外の強豪国との連携を活用し、シニアからジュニアまで一貫した強化・育成活動を実施した。

■第25回オリンピック冬季競技大会(2026/ミラノ・コルティナ)

日程	開催地	順位	出場選手
2026/2/7-8	コルティナ/イタリア	25	小林誠也

■ワールドカップ / ネイションカップ(=ワールドカップ予選) 男子

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/11/30	コルティナテストイベント	コルティナ/イタリア	34	小林誠也
2025/12/12	第2戦 ネイションカップ	パークシティ/アメリカ	7	
2025/12/13	第2戦 ワールドカップ		14	
2025/12/19	第3戦 ネイションカップ	レイクプラシッド/アメリカ	26	
2025/12/20	第3戦 ワールドカップ		-	
2026/1/2	第4戦 ネイションカップ	シングルダ/ラトビア	18	
2026/1/4	第4戦 ワールドカップ		25	
2026/1/9	第5戦 ネイションカップ	ウィンターベルグ/ドイツ	16	
2026/1/12	第5戦 ワールドカップ		24	
2026/1/16	第6戦 ネイションカップ	オーバホーフ/ドイツ	16	
2026/1/18	第6戦 ワールドカップ		25	
2026/1/22	第7戦 ネイションカップ	オーバホーフ/ドイツ	21	
2026/1/24	第7戦 ワールドカップ		-	

■アジア選手権

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/11/29	アジア選手権	平昌/韓国	5	藤塚 来
			—	三井晃佑
			10	得永法花
			11	辻愛依梨

-3. スケルトン

① 強化事業

国際大会においては 3 名の選手が出場し、競技経験の蓄積および競技力向上を図った。2026 年ミラノ・コルティナオリンピックにおいては、男子 1 名が出場し 23 位の成績を収め、オリンピック出場という目標を達成した。

また、シーズンを通じた国際大会参戦の結果、翌シーズンのワールドカップ出場枠を 2 枠獲得した。マイルストーンについては、North American Cup (NAC) および Asian Cup (AC) において一部達成が見られ、段階的な競技力向上が確認された。

スタートタイムについては、ワールドベストとの比較において依然として差が大きく、引き続き重要な課題である。一方で、オリンピックにおけるメダル獲得選手の分析から、上位選手とのタイム差はスタートのみならず滑走技術および用具対応を含めた総合力に起因していることが明らかとなった。特に上位層においてはスタートタイムの影響が限定的であり、滑走技術の精度および用具適応力が順位決定に大きく影響することが再認識された。

また、シーズンを通じて合計 122 本の滑走機会を確保し、選手は国際基準での滑走経験および大会対応力の向上を図ることができた。

■第 25 回オリンピック冬季競技大会(2026/ミラノ・コルティナ)

日程	開催地	順位	出場選手
2026/2/12-13	コルティナ/イタリア	23	高橋弘篤

■IBSF North American Cup

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/11/21	第 1 戦	ウィスラー/カナダ	9	高橋弘篤
			13	川野隼
			14	長尾太道
2025/11/22	第 2 戦	ウィスラー/カナダ	11	川野隼
			13	長尾太道
			14	高橋弘篤
2025/11/28	第 3 戦	パークシティ/アメリカ	3	高橋弘篤
			10	長尾太道
			14	川野隼

2025/11/29	第 4 戦	パークシティ/アメリカ	7	長尾太道
			10	高橋弘篤
			15	川野隼
2026/1/6	第 5 戦	レイクプラシッド/アメリカ	8	高橋弘篤
			9	長尾太道
2026/1/7	第 6 戦	レイクプラシッド/アメリカ	7	高橋弘篤
			12	長尾太道
2026/1/11	第 7 戦	レイクプラシッド/アメリカ	9	高橋弘篤
			16	長尾太道

■IBSF Asia Cup

日程	大会	開催地	順位	出場選手
2025/12/13	第 1 戦	平昌/韓国	4	長尾太道
			8	高橋弘篤
			13	川野隼
2025/12/14	第 2 戦	平昌/韓国	9	長尾太道
			12	高橋弘篤
			19	川野隼
2025/12/18	第 3 戦	平昌/韓国	14	高橋弘篤
			18	長尾太道
			20	川野隼
2025/12/19	第 4 戦	平昌/韓国	17	長尾太道
			19	川野隼
			29	高橋弘篤
2026/1/11	第 5 戦	北京/中国	8	川野隼
2026/1/12	第 6 戦	北京/中国	6	川野隼
2026/1/18	第 7 戦	北京/中国	6	長尾太道
			9	川野隼
2026/1/19	第 8 戦	北京/中国	7	川野隼
			9	長尾太道

(2) 指導者養成事業

日本スポーツ協会(JSPO)の公認コーチを有した指導者の育成と、その指導者が指導現場で適切に活動できるよう、以下の事業を実施した。

■JSPO コーチ 3 における専門科目内容の改定

長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)の氷上滑走停止など、現在の活動状況に合わせて指導者に求められる力に沿ったカリキュラムの策定を行い、2026 年 4 月にカリキュラム改定が JSPO により承認された。主な変更点は以下の通り。

- ・基礎理論 16 時間を 10 時間、実技と指導実習計 24 時間を 17 時間とし、新たに医・科学 13 時間を設置
- ・競技団体の取り組みを踏まえた活動を実施できるよう、基礎理論として「統括組織と NF の役割」「強化戦略プラン」「タレント発掘・育成」「マーケティング」を追加
- ・エビデンスに基づいた活動を実施できるよう、「女性のスポーツ医学」「発育・発達期の特徴」「外傷・傷害」「生理学」「栄養学」「バイオメカニクス」「心理学」「身体的特性」「インテ

グリティ」を追加

■NF 派遣遠征等における指導者の JSPO 資格義務付けの検討

NF が派遣する海外遠征や国内合宿等における指導者について、JSPO 資格保持の有無の確認を行った。連盟の規定等の変更に伴い、どのように義務付けていくかは引き続き検討するとともに、資格保持の重要性について継続して促していく。

■PF 主催大会における JSPO 資格義務付けの検討

PF が主催する各大会や活動とともに、それらにおける JSPO 資格保持者の関りについて現状把握を行った。次年度以降、資格保持者の配置等をどのように定めるか、引き続き検討を行う。

(3) 長野スパイラルそり競技調査研究事業

長野スパイラルの冬季製氷休止に伴い、スパイラル機材を活用した同事業は休止した。

(4) 医科学サポート推進事業

JOC Vision2064 で掲げる「高い競技力と人間力を活かし、充実した人生を歩む、憧れの存在となるアスリートを育てる」の体現を目指し、3 競技の強化後方支援として、競技力向上に繋がる選手教育や医・科学サポート活動、アンチ・ドーピング教育等のスポーツ・インテグリティ教育、その研究支援などを行った。

これらの活動に関しては、3 競技の強化方針ならびに計画に基づいた連携のもと、計画的に行なわれたものであり、医・科学部単独で行うものではない。

上記に基づき、以下の年間活動と事業を実施した。

① 年間活動

活動名称	目的	対象者
スポーツ・インテグリティ教育	アンチ・ドーピング教育をはじめとしたスポーツ・インテグリティに関する教育啓発活動を行う	加盟選手 スタッフ
サプリメントポリシーの運用	派遣対象選手に対して、アンチ・ドーピングを目的に、策定したサプリメントポリシーを運用し、利用管理を行う	派遣対象 選手
要望、状況に応じた 医・科学サポート	競技力向上につながるトレーニングやコンディショニングを目的に、要望と状況に応じて医師やトレーナー、管理栄養士、科学スタッフによる医・科学サポートを行う	派遣対象 選手
全日本プッシュ選手権大会 現地医療対応	大会参加者の安全、健康管理を目的に医師を現地に派遣する	大会参加 選手

② 事業

事業名称	開催地	事業目標	開催時期	人数(人)
3 競技合同会議	東京都(ハイ	・強化・育成戦略、中長期計画の共通認識	2025/9/6-	選手:18

	ブリッド開催)	の促進 ・選手、連盟のコミュニケーションの促進 ・アンチ・ドーピング等をはじめとしたスポーツ・インテグリティ教育の促進 ・競技力向上につながる医・科学情報の理解	9/7	スタッフ: 27
アスリートセミナー	オンライン	本連盟の派遣対象候補選手に対して、医科学サポートに関する情報や、情報リテラシー、コンプライアンスとインテグリティ教育、個別面談を行い、日本を代表して活動するに相応しいアスリートを養成する	2025/8/26 2025/8/28 2025/9/2 2025/9/9 2025/9-10 オンライン で全 5 回実施(個別面談を含む)	選手:16 スタッフ: 15

以上